



856-857737-001- A

使用上のご注意

N8151-125 内蔵 RDX をお買い上げいただきましてありがとうございます。本装置をご使用になる前に、本書を必ずお読みください。

■ RDX Utility のインストールについて

RDX Utility は Windows OS 上で本装置のイジェクトボタンを有効化およびステータス確認等ができるツールです。

本装置を安定してご使用いただくために、RDX Utility のインストールをお願いします。

インストール手順につきましては、添付 CD 内に収録の「ユーザーズガイド」をご参照ください。

■ Windows USB ドライバーのリトライ設定について

N8151-125 内蔵 RDX を Windows Sever 2008 R2 以前の OS で、かつ USB2.0 で接続する場合、OS 標準設定では USB ドライバーレベルでのリトライが行われていません。**N8151-125 内蔵 RDX** に対する書き込み／読み込み動作を実施する際、イベントログに警告やエラー(ID:51/57/50/55/11 等)が登録される場合がありますが、本手順書の設定を行うことにより、ハードウェアに近い USB ドライバーレベルでのリトライが実施され、安定した通信を行うことができます。設定手順につきましては、添付 CD 内に収録の「ユーザーズガイド」をご参照ください。

■ カートリッジ挿入時に発生するフォーマット要求の回避手順

RDX 装置用の RDX データカートリッジは NTFS(ファイルシステム)フォーマットで出荷されておりますが、パーティション開始位置が 0 Byte、32,256 Byte、1,048,576 Byte の 3 種類のもので存在しています。Windows 7、Windows Vista、Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2 環境下で、パーティション開始位置が 32,256 Byte の RDX データカートリッジから 1,048,576 Byte の RDX データカートリッジに差し替える、またはその逆の操作を行った場合、フォーマットを要求するメッセージが表示されます。

この現象が発生すると、フォーマット要求をキャンセルし、Explorer から再度カートリッジを開こうとしても同じメッセージが表示されます。また、フォーマットを実施しても現象は回避できません。

回避手順につきましては、添付 CD 内に収録の「ユーザーズガイド」をご参照ください。